



北条時頼一代記

^13  
4467  
10



八13  
4467  
10

北条時頼記卷之十

目録

- ① 魁生とてはぬ事
- ② 情を定久が事
- ③ 高橋のちのゆねが事
- ④ ちのゆねのちのゆねが事
- ⑤ 付水菜室の時事
- ⑥ 五回をよる人の事
- ⑦ 六回をよる人の事

七 くらねのちりくまふ物まのす

八 小糸たふる時ふれ持りす

付 天下無き業のす

④ 天下無き業のす

③ 天下無き業のす

② 天下無き業のす

① 天下無き業のす

四

天下無き業のす

小糸河新に巻之十

① 難生千り女の事

くらねのちりくまふ物まのす

小糸たふる時ふれ持りす

天下無き業のす

天下無き業のす

天下無き業のす

天下無き業のす

天下無き業のす

天下無き業のす



りはむらさきとてみゆきもみゆきも  
 かりはむらさきとてみゆきもみゆきも  
 のむらさきとてみゆきもみゆきも  
 りはむらさきとてみゆきもみゆきも  
 りはむらさきとてみゆきもみゆきも  
 りはむらさきとてみゆきもみゆきも  
 りはむらさきとてみゆきもみゆきも  
 りはむらさきとてみゆきもみゆきも  
 りはむらさきとてみゆきもみゆきも  
 りはむらさきとてみゆきもみゆきも  
 りはむらさきとてみゆきもみゆきも  
 りはむらさきとてみゆきもみゆきも

りはむらさきとてみゆきもみゆきも  
 かりはむらさきとてみゆきもみゆきも  
 のむらさきとてみゆきもみゆきも  
 りはむらさきとてみゆきもみゆきも  
 りはむらさきとてみゆきもみゆきも  
 りはむらさきとてみゆきもみゆきも  
 りはむらさきとてみゆきもみゆきも  
 りはむらさきとてみゆきもみゆきも  
 りはむらさきとてみゆきもみゆきも  
 りはむらさきとてみゆきもみゆきも  
 りはむらさきとてみゆきもみゆきも  
 りはむらさきとてみゆきもみゆきも  
 りはむらさきとてみゆきもみゆきも  
 りはむらさきとてみゆきもみゆきも  
 りはむらさきとてみゆきもみゆきも  
 りはむらさきとてみゆきもみゆきも  
 りはむらさきとてみゆきもみゆきも  
 りはむらさきとてみゆきもみゆきも  
 りはむらさきとてみゆきもみゆきも

Handwritten text in Kuzushiji style, consisting of approximately 15 lines of vertical script.

Handwritten text in Kuzushiji style, consisting of approximately 15 lines of vertical script.



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a single column and appears to be a formal or official record.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a single column and appears to be a formal or official record.

とらふにふくむるはあはれなるに  
あはれなるにふくむるはあはれなるに  
あはれなるにふくむるはあはれなるに  
あはれなるにふくむるはあはれなるに

① 徳田の書

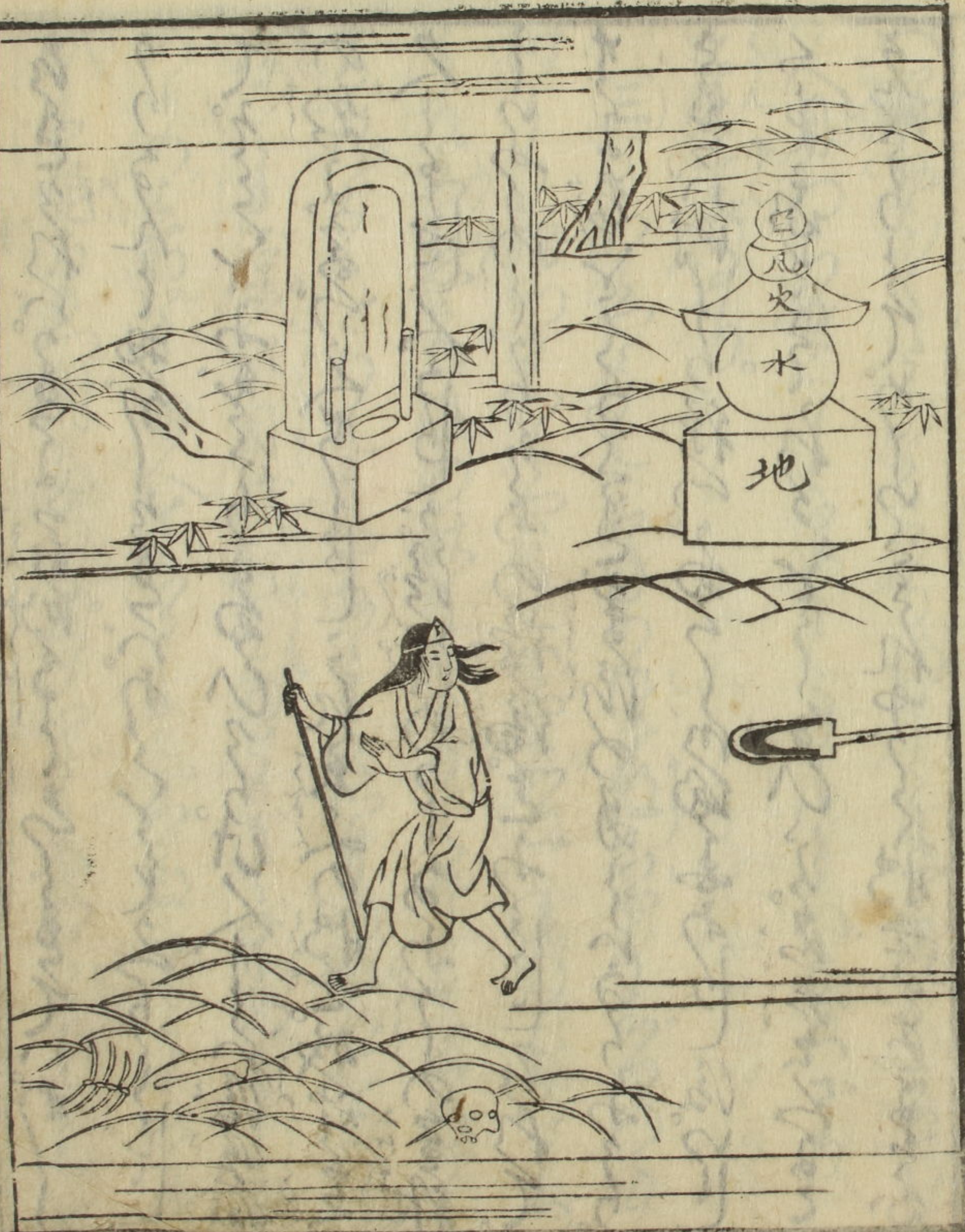
時を待てしむるはあはれなるに  
あはれなるにふくむるはあはれなるに  
あはれなるにふくむるはあはれなるに  
あはれなるにふくむるはあはれなるに  
あはれなるにふくむるはあはれなるに  
あはれなるにふくむるはあはれなるに  
あはれなるにふくむるはあはれなるに  
あはれなるにふくむるはあはれなるに

あはれなるにふくむるはあはれなるに  
あはれなるにふくむるはあはれなるに  
あはれなるにふくむるはあはれなるに  
あはれなるにふくむるはあはれなるに  
あはれなるにふくむるはあはれなるに  
あはれなるにふくむるはあはれなるに  
あはれなるにふくむるはあはれなるに  
あはれなるにふくむるはあはれなるに



一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百

一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百



あつてついでに...  
ついでに...  
あつてついでに...  
ついでに...  
あつてついでに...  
ついでに...  
あつてついでに...  
ついでに...  
あつてついでに...  
ついでに...

く...  
...  
く...

三

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...







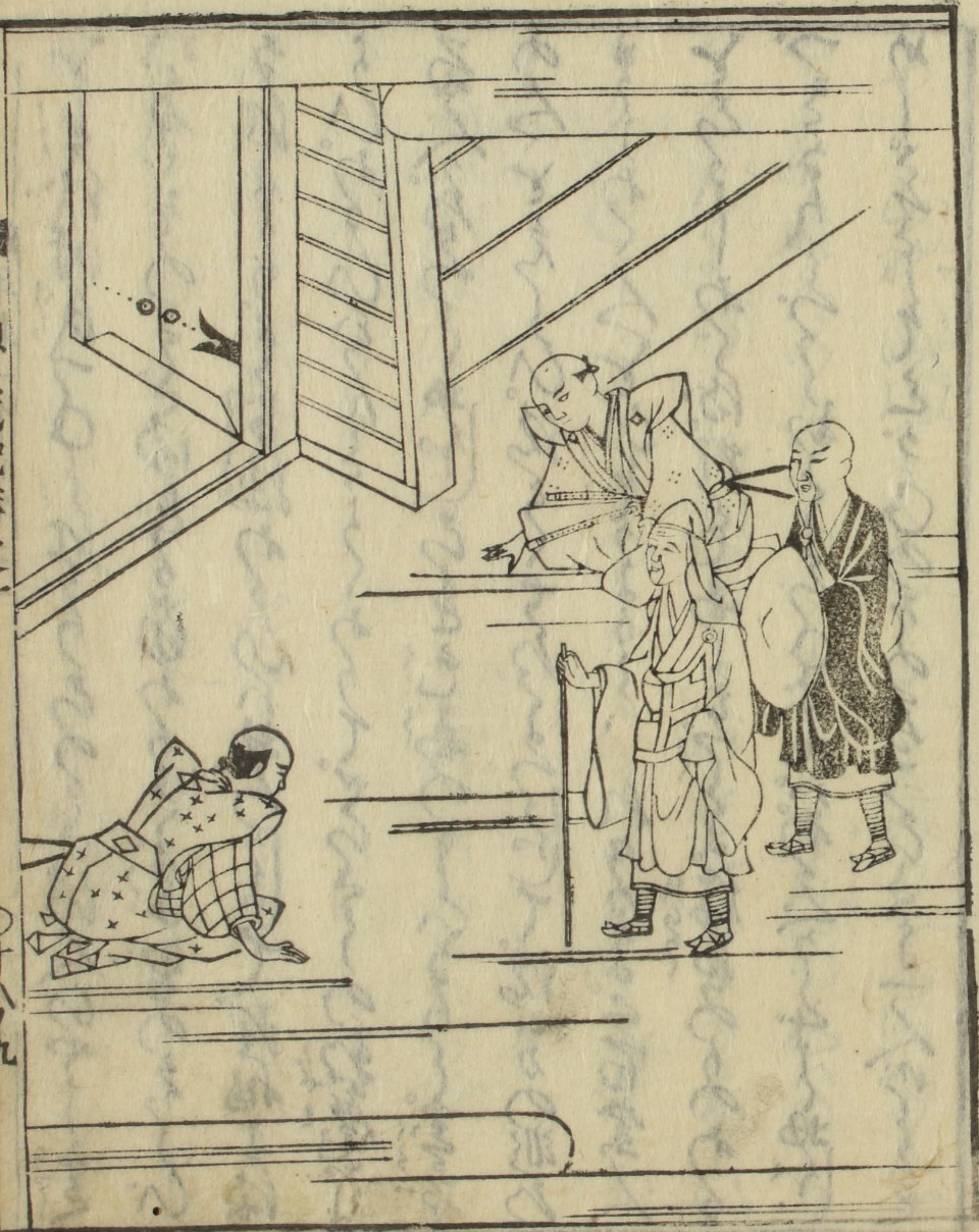








へししめさるるや。まき紙なまの射らざらふがす  
 ありけしをもさるが。ひらからかきかきとて  
 て物ぬのさるごとく。ひらからるる。まき紙  
 よゆづら射ら後つ。まき紙なまの射らざらふ  
 ころんし。料のねまき紙。ひらからかきかきと  
 ころんて。まき紙なまの射らざらふ。まき紙  
 ころんて。まき紙なまの射らざらふ。まき紙  
 ころんて。まき紙なまの射らざらふ。まき紙  
 ころんて。まき紙なまの射らざらふ。まき紙  
 ころんて。まき紙なまの射らざらふ。まき紙  
 ころんて。まき紙なまの射らざらふ。まき紙



時頼一代記卷之十

〇十七

とよむはつとていふなりとていふ人よ  
 いかんぞとていふはつとていふ人よ  
 なるはつとていふはつとていふ人よ  
 よひあつとていふはつとていふ人よ  
 むんあつとていふはつとていふ人よ  
 のつとていふはつとていふ人よ  
 ちつとていふはつとていふ人よ  
 とつとていふはつとていふ人よ  
 づつとていふはつとていふ人よ  
 ぢつとていふはつとていふ人よ

あつとていふはつとていふ人よ  
 やつとていふはつとていふ人よ  
 らつとていふはつとていふ人よ  
 りつとていふはつとていふ人よ  
 ちつとていふはつとていふ人よ

④ ちつとていふはつとていふ人よ  
 ちつとていふはつとていふ人よ

ちつとていふはつとていふ人よ  
 ちつとていふはつとていふ人よ  
 ちつとていふはつとていふ人よ  
 ちつとていふはつとていふ人よ

とて條の岩割なるごとく一箇の條目

○早馬車

一 篇に被る重なるは、  
 此の向ふ也。或は之を申裁る  
 帳は、後而於此に被籍之中  
 先傷ち也凡あるは、  
 先傷ち也凡あるは、  
 先傷ち也凡あるは、

一 此の向ふ也。或は之を申裁る  
 帳は、後而於此に被籍之中  
 先傷ち也凡あるは、

○高下四物

一 高下四物は、  
 此の向ふ也。或は之を申裁る  
 帳は、後而於此に被籍之中  
 先傷ち也凡あるは、

○禮法之勅令

一 勅令之禮法 勅令之禮法 勅令之禮法 勅令之禮法

一 勅令之禮法 勅令之禮法 勅令之禮法 勅令之禮法

一 勅令之禮法 勅令之禮法 勅令之禮法 勅令之禮法

一 勅令之禮法 勅令之禮法 勅令之禮法 勅令之禮法

一 勅令之禮法 勅令之禮法 勅令之禮法 勅令之禮法

○可修之勅令

一 勅令之禮法 勅令之禮法 勅令之禮法 勅令之禮法

一 勅令之禮法 勅令之禮法 勅令之禮法 勅令之禮法

一 勅令之禮法 勅令之禮法 勅令之禮法 勅令之禮法

一 勅令之禮法 勅令之禮法 勅令之禮法 勅令之禮法

一 勅令之禮法 勅令之禮法 勅令之禮法 勅令之禮法

一 勅令之禮法 勅令之禮法 勅令之禮法 勅令之禮法

補之職矣

一 勅令之禮法 勅令之禮法 勅令之禮法 勅令之禮法

一 勅令之禮法 勅令之禮法 勅令之禮法 勅令之禮法

一 勅令之禮法 勅令之禮法 勅令之禮法 勅令之禮法

一 勅令之禮法 勅令之禮法 勅令之禮法 勅令之禮法



一 付銀をいひ言ひしは後修り之人  
 一 只此津信宮にありては  
 一 又言ふ所は徳人の事也之等他也  
 一 乃糖所よりしては  
 一 穀生を極致す可修物也  
 一 不修心持棄る  
 一 福倉中持修理并在る事あり可修  
 一 深る  
 一 不修心持棄る  
 一 不修心持棄る  
 一 不修心持棄る

一 念ひたる振事女人以り  
 一 修儀墨紙極修儀人中  
 一 修儀墨紙極修儀人中  
 一 長心申  
 一 百姓等ありては一白被りて延儀會  
 一 福山之山家人数も又ありては  
 一 外とて後気治月食了百修  
 一 矣

名信作執達如件

武彦守

文應二年二月廿五日

相模守

名の抄の中記す事... 相模守... 武彦守... 文應二年二月廿五日

世の... 月... 抄... ぬ... 身... 志... り... 一... 知... 據...





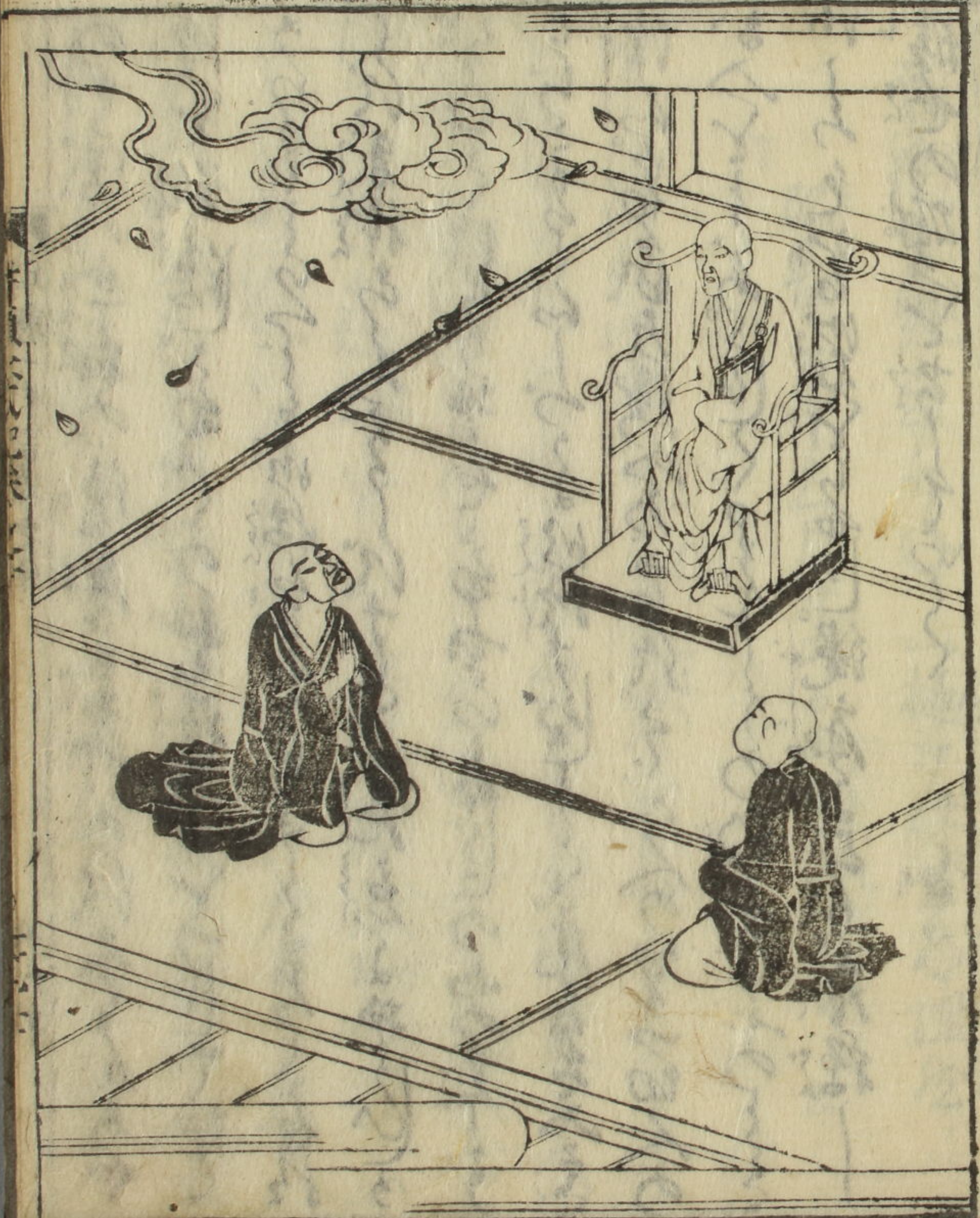




まらる。まらしとての縁トるひつる。おやくのむらりの  
 ゆより。と百ち千首とるびあま。お宮とのゆあ  
 りく。あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
 中のゆゆとる人の身目と押とるいあまのあまの  
 くわりとるいあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
 の集あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

⑥ 六時れくあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
 ひ。あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
 うへ。あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの







高麗から来て居る。其の時の御成程の御成程よりか  
 へつらう。時勢よくその御成程の御成程よりか  
 まり物作よりその御成程の御成程よりか  
 りや。その御成程の御成程よりか  
 つい。その御成程の御成程よりか  
 や。その御成程の御成程よりか  
 ひかり。その御成程の御成程よりか  
 行の早の御成程。その御成程よりか  
 て。その御成程の御成程よりか  
 時勢 お後より時勢 お後より  
 貞時 お後より 仲時 お後より



〇三三

くま... 中... の海... 水... 尾

山首元祿四年 未歲正月辰辰

江戸... 西村... 日本橋... 松葉...

Handwritten signature or mark at the bottom of the left page.

Handwritten signature or mark at the bottom of the left page.



